

## 校名：筑波大学附属坂戸高等学校

所在地：〒350-0214 埼玉県坂戸市千代田 1-24-1  
電話番号：049-281-1541

記載日：2016年5月10日 記載者：石井 克佳 記載者役職：副校長

### 貴校の校風、特色：

**【教員と生徒の密なコミュニケーションに基づくきめ細かな指導】**本校は1学年160名、全校生徒480名の比較的少人数の高校です。恵まれた施設の中で、高度な専門性を持つ教員の指導のもと、充実した3年間を過ごすことができます。進学指導においては、生徒との二者面談、保護者を交えた三者面談などを1年次から定期的に実施。教員は、生徒の自主性や意思を尊重しながら、その上で卒業後の進路や、将来の生き方について考えるように指導します。また、学校や教員の持つネットワークを活かし、生徒一人ひとりの必要とする情報を適切に提供するように心がけています。

**【総合学科のパイロット校】**筑波大学附属坂戸高等学校は、総合学科高校としての歴史をスタートさせた1994年以来、時代のニーズも考慮したカリキュラムや科目の開発に努めてきました。筑波大学との連携を基本に、各分野において専門性の高い教育を行い、その取り組みは高い評価を得ています。広大な敷地を活かした体験型の科目も数多く開講され、理論と実践の融合した知を重視していることも本校の大きな特徴です。

**【国際的視野の獲得を目指したプログラムの実践】**平成7年度から、2年次生での海外校外学習を実施しています。そして、本校において重要な位置づけにある「卒業研究」では、海外での調査を希望する生徒を支援するプログラムも準備しています。

また、筑波大学が進める国際協力プロジェクトの一部を本校でも実施。様々な国からの研修生や留学生を受け入れる機会も多く、一緒に授業を受けたり、テーマ活動を行ったりします。それらの交流を通じて自然かつ実践的な形で国際感覚を身に付け、国際的視野に立ち物事を考えることができるようになります。平成26年度より、文部科学省「スーパーグローバルハイスクール(SGH)」に関する研究開発指定を受け、国際的に活躍できるグローバル・リーダーを育成するため、国内外の大学や企業、国際機関等との連携による質の高い教育課程等の開発・実践を行うこととなりました。

### 貴校の卒業生の活躍状況について：

#### 1. 追跡調査、その方法

平成6年度に総合学科に改編し、20年あまりが経過しました。平成25年度26年度の2年間「総合学科検証プロジェクト」を立ち上げ、在校生・卒業生それぞれの意識調査(アンケート調査)を実施しました。

#### 2. どの程度、把握できているか、また、その情報はどこが持っているか

卒業生のアンケート調査は対象者2,187名中491名から回答を得ました。(回答率22%)。調査結果は冊子にして報告し、研究大会で配布しました。

#### 3. 状況を具体的に

・第二期改革はきわめて堅調な成果があった。

・特に「産業社会と人間」「総合的学習の時間」「卒業研究」といった総合学科ならではの科目に関連する評価が上昇しており、キャリア教育を軸にこれらの特色ある科目が位置づけられ、機能していたと考えられる。

・そうした「改善」は特定の科目群や系列に偏向せず、全校的に実施されている。

・これらの改善は「卒業生の声」とあわせて総合的に判断すると、自主性や自己責任などの姿勢や能力、問題解決能力、プレゼンテーション能力などに寄与していると卒業生は自己評価している。などが挙げられる。

**貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：**

① 追跡調査をしているか

追跡調査はしていません。

② どの程度、把握できているか、また、その情報はどこが持っているか（大学、学校園、その他）ほとんど把握していません。

③ 状況を具体的にお書きください

近年、他大学に転出する教員が数名います。追跡調査はしていません。

**魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：**

(1)大学との教育・研究に関する連携の充実

・大学教員による特別講義、・大学教員の授業力向上、・大学生への英語リメディアル教育、・大学や大学院との連携、・アセアン留学生との交流

(2)実験校として研究と実践の成果発信

・地域連携 「地域食育支援プロジェクト」では市と連携し、地域の社会福祉施設・保育園との連携を行っている。

・支援教育体制の充実 スクールカウンセラーの配置、教職員向け研修、特別支援学校との交流、交流活動の充実

・教育実習 年間2回のべ約40名を受け入れている。

・教員免許状更新講習の会場になっている。年間2回 8月、12月

・総合学科研究大会 2月、全国各地より参加者がある。

・SGH(スーパーグローバルハイスクール)の活動

科目開発、国際フィールドワーク、入試の改善、新校外学習、インドネシア語講座

・高校生ESD国際シンポジウムの開催 2日間 11月

インドネシア、タイ、フィリピンより招へい

・姉妹校協定 インドネシア国内3校と協定締結

(3)PTA 後援会活動

・PTA 後援会の活動では、保護者や卒業生の保護者が会員となり、美化活動や学校行事の応援、バザー等を開催し、学校をサポートするとともに会員同士の交流が活発です。

**地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：(一般論ではなく、できるだけ、**

具体的な状況が理解できるように記載してください)

- ・本校は、普通高校と専門高校の両方の特徴を備えた「総合学科高校」として、地域ではユニークな存在です。それに加え、近年 SGH 等でグローバル人材の育成を進めており、文部科学省からも注目される存在になりつつあります。
- ・筑波大学大学院教育研究科と連携し、国際バカロレア日本語 DP 実施の準備を進めています。

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：(現在、この国では少子化の中、少し広域に見るとミッションの重なる教員養成系大学、教育実習の場、教育研究校が存在し、そのような中、教員養成数の削減、そのための場の削減、ひいては附属学校の存在意義までが議論されています。そのような現実の中、一般論ではなく、できるだけ、貴校の実績にもとづいて、この国に附属学校が、この国および地域に貴校が、必要であることをアピールしてください)

- ・本校は総合学科高校の利点を活かし、多数の教科で教育実習が可能な体制を整えています。普通教科のみならず、農業・工業・情報・家庭・福祉・商業の免許取得が可能です。
- ・地元の市と連携し、食育に関する支援を行っています。本校農業科の教育活動をもとに、地域の小中学校の食育や農業体験活動への支援、学校給食への材料提供等を定期的にも実施しています。
- ・近年ボランティア活動が盛んになり、福祉科の授業・放課後のボランティア活動が一体となって、地域の社会福祉施設との交流を継続して実施しています。
- ・教員免許状更新講習を自校で開催し、小中高・特別支援学校の教職員や、総合学科のキャリア教育を知りたい教職員から高い評価をいただいています。